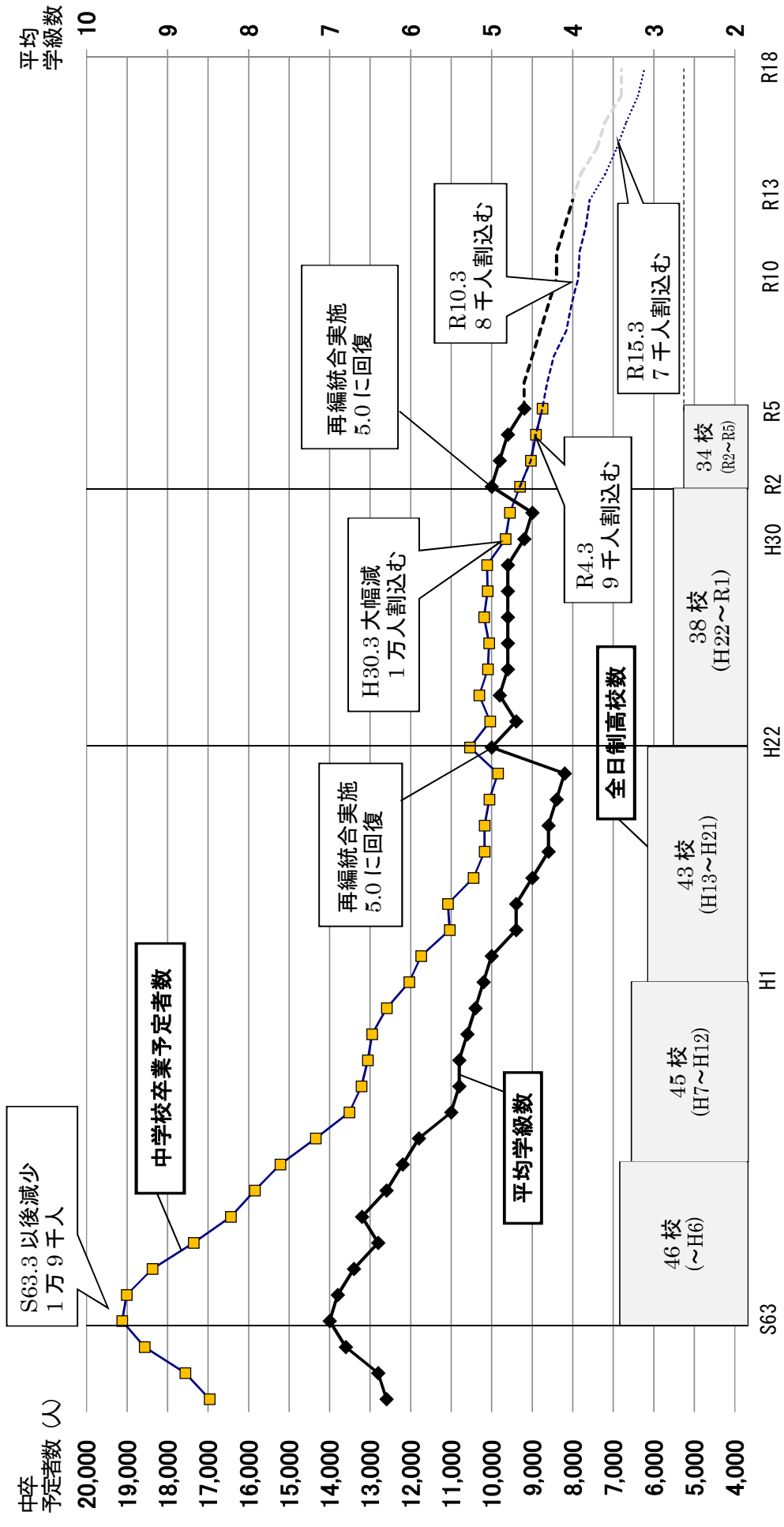


1	今後の中学校卒業予定者数の推移	・・・1
2	再編の経緯	・・・2
3	再編統合校の状況	・・・3
4	令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する検討経過等	・・・5
5	県立高校の学びの改革に向けて	・・・6
6	令和2年度再編統合の評価	・・・7
7	令和2年度再編統合に関するアンケート調査結果の概要	・・・13
8	県立高校のあり方に関するアンケート調査結果の概要	・・・15
9	総合教育会議における主な意見と論点整理	・・・18
10	今後の検討の方向性	・・・19

1 今後の中学校卒業予定者数の推移



※ 全日制高校数は1学年を募集している学校数
 ※ 中学校卒業予定者数の算出について、H20年～R13年は学校基本調査(各年5月1日)を基にした生徒数。R14年～R18年は県の人口移動調査(R3年10月1日)に基づき推定値
 ※ R6年以降の平均学級数(学級数÷学校数)は、公私比率を70.8%と仮定し、学校数を34校で維持した場合の見込み
 ※ 中学校卒業予定者数は、記録が残るS27の21,176人以降、S88の31,995人が最大数となっている。

2 再編の経緯

平成 18 年 5 月	県立学校教育振興計画策定委員会設置(6回開催)
平成 19 年 12 月	「県立学校教育振興計画 基本計画」策定
平成 20 年 1 月	県立学校教育振興計画推進会議設置(3回開催)
平成 20 年 2 月	再編統合検討対象校を公表
平成 20 年 12 月	県立高校再編の前期実施計画策定 (新高校の学校規模、学科構成など新しい学校の概要を公表)
平成 22 年 4 月	平成 22 年度再編(新高校 5 校開校)
平成 26 年 9 月	県立高校整備のあり方等に関する検討委員会設置(8回開催)
平成 28 年 4 月	「県立学校整備のあり方に関する報告書」作成
平成 28 年 6 月	総合教育会議 (H28.6~H29.9) (8回開催)
平成 29 年 9 月	「県立高校再編の基本方針」策定
平成 29 年 10 月	県立高校教育振興会議設置 (3回開催)
平成 30 年 1 月	「県立高校の再編統合対象校などについて (報告)」作成
平成 30 年 2 月	「県立高校再編の実施方針」策定 (再編統合検討対象校を公表)
平成 30 年 12 月	「県立高校再編の実施計画」策定 (新高校の学校規模、学科構成など新しい学校の概要を公表)
令和 2 年 4 月	令和 2 年度再編 (新高校 4 校開校)
令和 3 年 8 月	令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会設置(9回開催)
令和 5 年 5 月	「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書」作成

3-1 平成22年度再編統合校（5校）の状況

【滑川高校】

H21		学級数	定員
海洋	海洋技術スポーツ科	2	50
	海洋食品情報科	1	30
滑川	普通科	3	120
	薬業科	1	40
	商業科	1	40

(8学級280名)

H22～		学級数	定員
新滑川	普通科	3	120
	薬業科	1	40
	商業科	1	40
	海洋科	1	40

(6学級240名)

【富山工業高校】

H21		学級数	定員
大沢野工業	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気情報科	1	40
富山工業	機械科	1	40
	情報技術科	1	40
	金属工業科	1	40
	電気科	2	80
	建築科	1	40
	富山西	土木科	1

(10学級400名)

H22～		学級数	定員
新富山工業	機械工学科	2	80
	金属工学科	1	40
	電子機械工学科	1	40
	電気工学科	2	80
	建築工学科	1	40
	土木工学科	1	40

(8学級320名)

【高岡工芸高校】

H21		学級数	定員
二工上業	機械工学科	1	40
	環境科学科	1	40
高岡工芸	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気科	1	40
	建築科	1	40
	工芸科	1	40
	デザイン科		

(7学級280名)

H22～		学級数	定員
新高岡工芸	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気科	1	40
	建築科	1	40
	土木環境科	1	40
	工芸科	1	30
	デザイン・絵画科	1	40

(7学級270名)

【氷見高校】

H21		学級数	定員
有磯	農業科学科	1	30
	漁業科	1	30
	水産食品科		
	生活福祉科	1	40
氷見	普通科	4	160
	商業科	1	40

(8学級300名)

H22～		学級数	定員
新氷見	普通科	4	160
	農業科学科	1	40
	海洋科学科		
	ビジネス科	1	40
	生活福祉科	1	40

(7学級280名)

【南砺福野高校】

H21		学級数	定員
南砺井波総合	普通科	1	40
	福祉科	2	50
南砺福野総合	普通科	4	160
	農業環境科	1	30

(8学級280名)

H22～		学級数	定員
南砺福野	普通科	5	200
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	40

(7学級270名)

3-2 令和2年度再編統合校（4校）の状況

【入善高校】

R 1		学級数	定員
泊	普通科	3	120
	観光ビジネスコース	1	40
入善	普通科	3	120
	自然科学コース	1	40
	農業科	1	30

(7学級270名)



R 2～		学級数	定員
新入善	普通科	4	160
	観光ビジネスコース	1	40
	自然科学コース	1	40
	農業科	1	40

(5学級190名)

【富山北部高校】

R 1		学級数	定員
水橋	普通科	3	120
	体育コース	1	40
富山北部	普通科	3	120
	くすり・バイオ科	1	40
	情報デザイン科	1	40

(8学級320名)



R 2～		学級数	定員
新富山北部	普通科	3	120
	体育コース	1	40
	くすり・バイオ科	2	80
	情報デザイン科	1	40

(6学級240名)

【高岡高校】

R 1		学級数	定員
高岡西	普通科	3	120
	人間福祉コース	1	40
高岡	普通科	5	200
	探究科学科	2	80

(10学級400名)



R 2～		学級数	定員
新高岡	普通科	5	200
	探究科学科	2	80

(7学級280名)

【南砺福野高校】

R 1		学級数	定員
南福砺光	普通科	2	80
	国際科	1	30
南福野	普通科	3	120
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	30

(8学級290名)



R 2～		学級数	定員
新南福野	普通科	4	160
	国際科	1	30
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	30

(7学級250名)

4 令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する検討経過等

- 第1回 検討委員会（令和3年8月31日）
 - ・将来展望に立った県立高校のあり方について

- 第2回 検討委員会（令和3年11月2日）
 - ・職業系専門学科の現状と今後のあり方について

- 第3回 検討委員会（令和4年2月9日）
 - ・普通系学科・総合学科の現状と今後のあり方について
 - ・様々なタイプの学校・学科のあり方について

- 第4回 検討委員会（令和4年6月24日）
 - ・定時制・通信制高校の現状と今後のあり方について

- 第5回 検討委員会（令和4年11月11日）
 - ・県立高校のあり方に関するアンケート調査結果について

- 第6回 検討委員会（令和4年12月15日）
 - ・普職比率について
 - ・県立高校の学びの改革に向けて（骨子素案）
 - ・学区のあり方について

- 第7回 検討委員会（令和5年1月25日）
 - ・令和2年度新高校開校に係る評価について
 - ・県立高校の学びの改革に向けて（骨子素案）

- 第8回 検討委員会（令和5年2月17日）
 - ・令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書（素案）について

- パブリックコメント（令和5年3月7日～令和5年3月28日）

- 第9回 検討委員会（令和5年5月9日）
 - ・令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書（案）について

5 県立高校の学びの改革に向けて

1 背景

・ Society5.0時代の到来 ・ 技術革新、グローバル化の進展 ・ 少子化の進行

多様な人々と協働しながら社会的変化を乗り越え、自分の未来を切り拓き、社会の創り手となる人材の育成が必要

本県の現状と課題

- ◎生徒一人一人の個性を伸ばす魅力ある高校づくり
(ものづくり中核校、探究科学科、総合選択制等の設置)
- ◎中学卒業予定者数の減少に伴う学級減による小規模校の増加
- ◎学級減に伴う1学科1学級の職業科への対応
- ◎多様な生徒へのきめ細かな対応

富山県教育振興基本計画【3つの横断的取組み】

- ◎「課題解決型の教育」の展開
- ◎「ICT教育」の推進
- ◎「チーム富山教育」の実現

2 これまでの取組み

◎授業改善の推進

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の改善(教師力向上支援事業、教師の学び支援事業)
- ・課題解決型学習の推進
(とやま新時代創造プロジェクト学習推進事業)

◎ICTを活用した教育の推進

- ・1人1台タブレットの活用
- ・各校のICTを活用した授業を公開し、授業実践研究を推進
- ・「オンライン教育活用ガイドブック」を作成
- ・情報通信技術支援員の派遣

◎富山型キャリア教育

- ・社会へ羽ばたく「17歳の挑戦」
- ・高校生職業教育プログラム
- ・キャリア教育アドバイザー配置

◎英語・グローバル教育

- ・研究拠点校での研究・実践
- ・各種コンテストの実施
- ・とやま型スーパーグローバルハイスクール事業
- ・高等学校生徒海外派遣事業

◎とやまの高校生ライフプラン教育充実事業

- ◎とやま科学オリンピックの実施
- ◎ふるさと学習の実施

普通系学科

- ・生徒の実態を踏まえた選択科目の充実
- ・少人数指導など個に応じた指導の充実
- ・地域の課題をテーマにするなどして、課題発見・課題解決能力の育成をねらいとする探究型の学習を推進
- ・SSH、SGHの取組み

総合学科

- ・キャリア教育の重視(1年次から「産業社会と人間」などで、将来の生き方や進路について考えていく)
- ・テーマ性をもった選択科目群「系列」の開設などによる多様な教育課程の編成

職業系専門学科

- ・インターンシップの実施や企業の技術者の招聘等による専門性の高い授業の展開
- ・とやまの高校生マイスター育成事業
- ・各種資格の取得に向けた積極的な取組み

定時制・通信制

- ・多様な生徒に対応したきめ細かな指導
- ・多部制による弾力的な学びの対応
- ・スクールカウンセラーの配置、教育相談体制の充実

3 令和の魅力と活力ある県立高校づくりの目指す姿

◇魅力ある高校教育を通じた「真の幸せ(ウェルビーイング)」の向上 ~学びたい、学んでよかったと思える高校づくり~

- 生徒の可能性を引き出し、自分らしく未来を切り拓いていくための、確かな資質能力と意欲の育成
- 社会の持続的な発展を担うための、主体的に課題を発見し解決する力や他者と協働して解決策を生み出す力の育成
- 自己と他者を尊重し、多様な価値観を認め合いながら、よりよい社会を築こうとする態度の育成

4 今後の魅力と活力ある県立高校づくりに向けた6つの方向性と各学科等の取組み

- 各学校の特色や魅力をさらに深化させるための取組みを重点的に推進
- 地域・大学・企業や学校間等の連携による取組みを推進
- ICTの活用による学びの充実を推進
- グローバルに活躍する生徒の育成を推進
- 魅力と活力ある学校づくりを推進するための教育環境の整備
- 配置や定員、再編統合にかかる具体的な検討

- ◎特色・魅力ある教育課程の実現に向けたカリキュラムマネジメントの推進
- ◎学びの魅力や特色について、効果的な情報発信

- ◎ICTの効果的な活用等による個別最適な学びと協働的な学びの推進
- ◎個別最適な学びや協働的な学び等の教育活動を担う教職員を支援する取組みの推進

普通系学科

- 論理的思考力や問題解決能力の育成に向けたプロジェクト学習の推進
- 文理の枠を超えた複合的な課題解決を通して、新たな価値を創造するための資質・能力の育成に向けたSTEAM教育の推進
- 幅広い学力層に対応したきめ細かな指導の充実
- 地域や大学、産業界との連携・協働の積極的な取組みの推進
- インターンシップの実施などキャリア教育の推進
- 普通系学科の魅力化・特色化をさらに進めるため、学科やコースの改編などについての検討

総合学科

- 生徒の興味・関心、進路指導等に関わる系列等について検証しつつ、地域の特性を生かした系列等の整備についての検討
- 系列での学びを通じた専門性のさらなる向上と、生徒が自己の興味関心に応じて主体的に選択して学習できるという特性を生かした課題探究型の学びの充実
- 地域や大学等との連携や外部の専門人材の活用等のさらなる充実
- 地域や民間企業でのフィールドワークを生かした課題解決型の探究学習の推進
- 全県的な視野に立った総合学科のある学校の配置バランス等の検討

職業系専門学科

- 基礎的・基本的な専門知識・技術を身につけるとともに、企業や大学との連携、先端技術の活用などを旨とした活動の推進
- 生徒が地元企業や実際の社会の状況を深く理解できるよう、インターンシップなどを通じた企業等との連携のさらなる推進
- 他学科や地域と連携した協働的な学びの推進と課題探究型の学びの充実
- 最新の設備を活用し、DXに対応できる即戦力となる生徒の育成
- 生徒や社会のニーズに対応した学科やコースの改編などについての検討

定時制・通信制

- 多様な生徒に対応した習熟度別などのクラス編成による授業の推進
- 多様な生徒に対応した学び直しもできる教育課程の推進
- 通級指導の充実
- スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの専門的な指導員を積極的に活用した生徒支援体制の推進
- ジョブサポートティーチャーによる就職指導のさらなる充実

高校再編や学科・コースの見直しなどの基本的な方針についての新たな検討会議における具体的な検討

様々なタイプの学校・学科等

◎中高一貫教育校

◎国際バカロレア認定校

◎多様な生徒に対応した支援体制 などについての研究、検討

6 令和2年度再編統合の評価

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書』（令和5年5月）より

ア 学校規模について

全県立高校（全日制）の平均学級数は、再編統合を実施した令和2年度に改善されました。再編した学校だけでなくそれ以外の学校についても、学校規模を確保したことによって、生徒同士が切磋琢磨できる教育環境のもとで教育内容の充実が図られています。

【高校再編（R2再編）による県立高校（全日制）学校規模の変化】

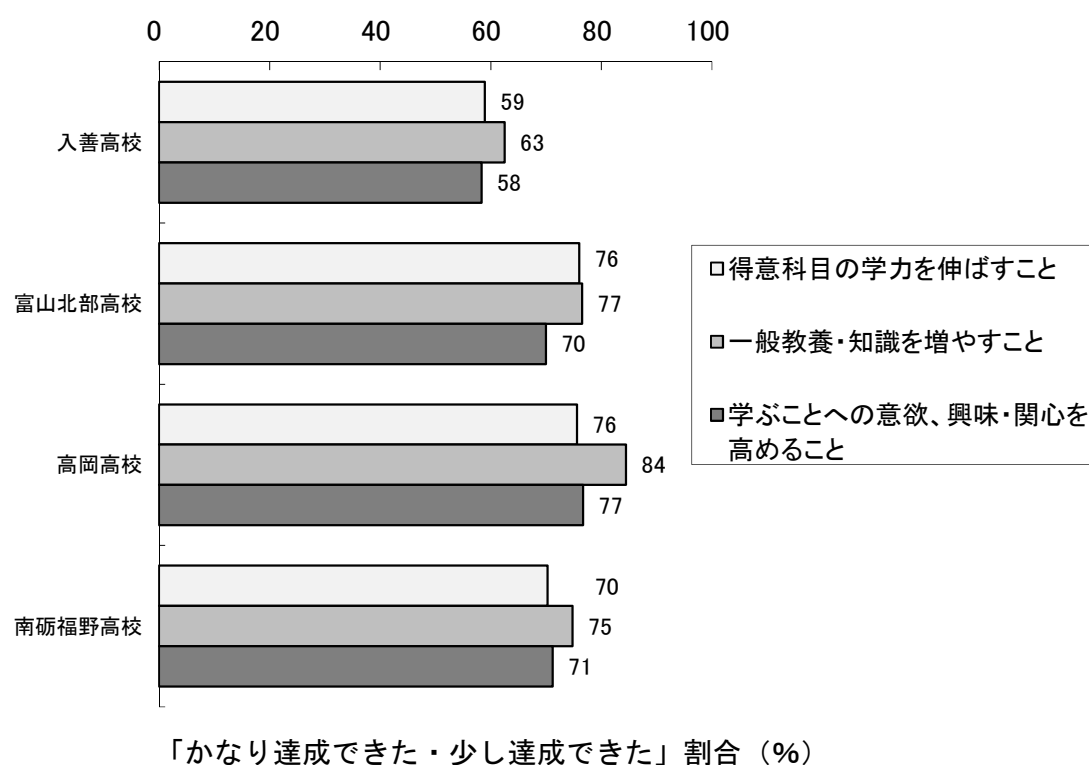
	平均学級数	6学級以上の学校数	3学級以下の学校数
R1	4.5	9	10
R2	5.0	12	4

イ 教育活動の充実について

①学力の充実

新高校においては目指す姿を明確にし、特色ある選択科目を増やすなど生徒が希望する進路に対応できるようになりました。高校生活において、6割～8割程度の生徒が学ぶことへの意欲、興味・関心を高め、得意科目の学力を伸ばすことや一般教養・知識を増やすことができたとしており、学習環境の充実が図られたことがうかがえます。

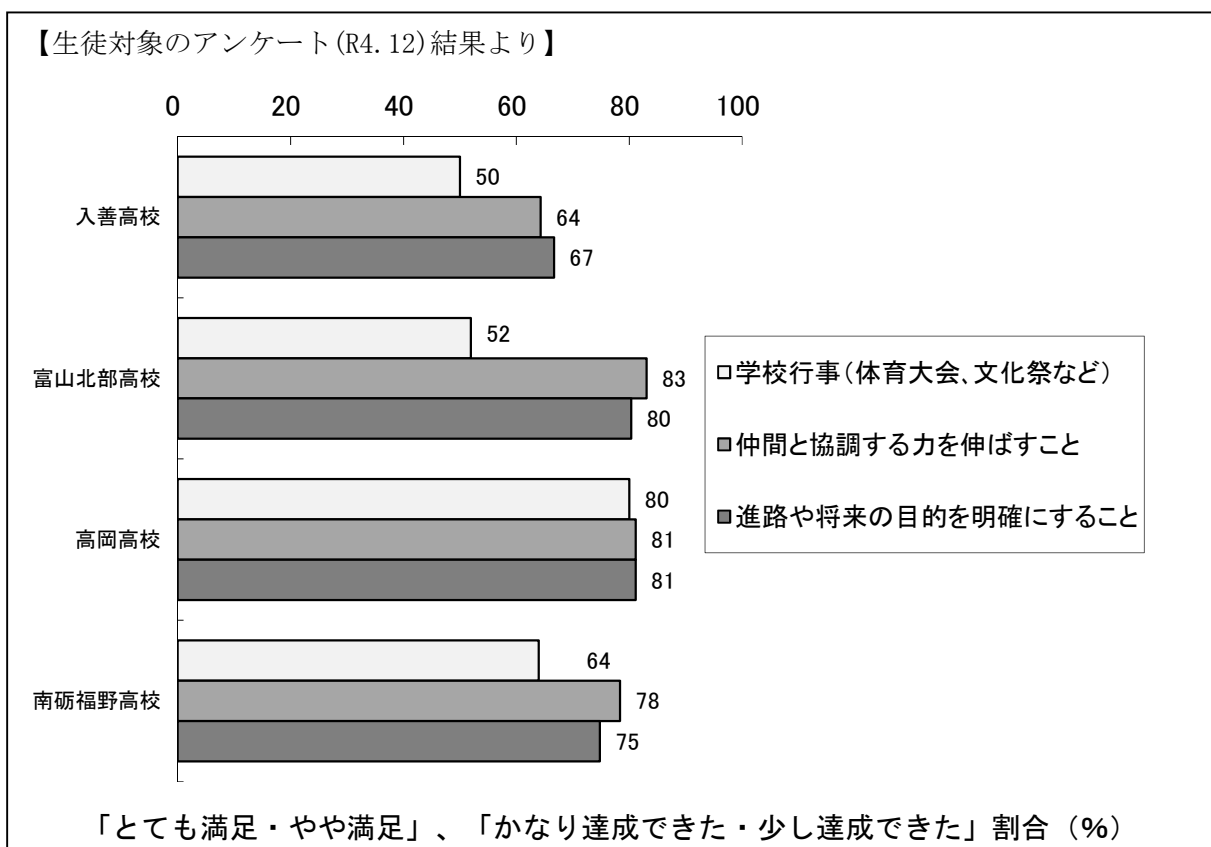
【生徒対象のアンケート(R4.12)結果より】



ただし、生徒数が増えたことなどにより、入学時の学力の幅が大きくなっており、どの生徒も学力を伸ばすことができるよう、一人一人の生徒の状況に応じた指導を工夫して行うことが必要です。

②学校行事等の活性化

3年間で培われる学力に加えて、コロナ禍であったにもかかわらず、学校行事等の満足度において一定程度の満足感を示していることに加え、6割～8割程度の生徒が仲間と協調する力を伸ばすことや進路や将来の目的を明確にすることが達成できたとしており、生徒が互いに他者と協働する力を養い、進路実現にも良い影響を与えているのではないかとということがうかがえます。



【中学校からの聴き取り】

- ・大学進学や就職などができ、学力や希望に合わせて進路選択ができる。
- ・総合選択制をとっており、学科を越えて選択科目を履修できることが興味深い。
- ・体育コースやくすり・バイオ科、情報デザイン科は近隣高校にはなく、目的が明確な生徒にとっては、進学したいと考える高校となっている。
- ・以前に比べると、探究科学科への志望は増えてきていると感じられる。さらなる情報発信などによって、探究科学科の魅力が高まると良いのではないかと思います。
- ・学力層の幅が広がったのではないかと考えている保護者もいる。
- ・様々な学科があり、行事や部活動を異なる学科の仲間と取り組める。
- ・体育大会は活気があり、パワーを感じる。様々な学科が集まり、一体となって取り組むので魅力的である。たくさんの人が集まって活動できることは大変良いと考えている。

③部活動の活性化

運動・文化系の部活動全般において、部活動数・部員数が増え、活性化しています。特に、入善高校ではアーチェリー部、富山北部高校ではフェンシング部、カヌー部、陸上競技部、ハンドボール部、高岡高校ではソフトテニス部、南砺福野高校ではライフル射撃部のように小規模校から引き継いだ部活動が、各学校の特色の一つとなっています。また、富山北部高校では、体育コースの生徒が、各部活動の推進役になっているなど部活動の果たす役割が大きくなっています。

【再編前と再編後の部活動数の変化】

R 1		R 4	
高校名	部活動数	新高校名	部活動数
泊高校	15	入善高校	19
入善高校	17		
水橋高校	17	富山北部高校	27
富山北部高校	21		
高岡西高校	22	高岡高校	33
高岡高校	32		
南砺福光高校	17	南砺福野高校	35
南砺福野高校	32		

【中学校からの聴き取り】

- ・部活動の数が増えたことが、良さになっている。
- ・中学校の部活動キャプテンなどが多く進学しており、勉強も部活動もやりたいという生徒が進学している。
- ・運動部以外にも文化部が多種にわたり開設されており、部活動が盛んな印象がある。
- ・外で活動している部活動を目にすることがあり、一生懸命やっているという印象である。

ウ 新高校における魅力づくりのための取組みについて

① 総合選択制

南砺福野、富山北部、入善の3校において、「総合選択制」により生徒同士が学科の枠を超えて学びあうことができるようになりました。課題として、専門学科の生徒の普通科目に対する学習ニーズが高い反面、普通科生徒は他学科科目の履修が低調という点が挙げられます。今後は、生徒の学習ニーズに合った総合選択制の運用を図る必要があります。

② 専門教科と学校設定科目などの学校の特色を活かす取組み

専門教科「体育」の「スポーツⅠ」～「スポーツⅣ」（富山北部高校）では、体育の様々な種目・理論を幅広く学習するとともに、専門種目の高度な運動技能を養っています。また、「観光基礎」「エリアスタディ」（入善高校）、「英文多読講座」（南砺福野高校）などの学校設定科目は、当初のねらいを生かして、生徒の表現力や思考力、実践力を高める役割を果たしています。高岡高校では、希望する進路を実現するために個々の学力に応じた手厚い学習指導により、学力を高めているとともに、探究的な学習を推進し、課題解決力などの探究する力を育成するための学習活動も積極的に行っています。さらに、職業系専門学科を設置している南砺福野高校、富山北部高校、入善高校では、それぞれの分野におけるスペシャリストを育てるための知識・技能を身に付ける学習や地域社会・企業等との連携による職業人の育成を目指した取組みなど、特色ある教育活動を行っています。

【再編校校長の意見】

- ・観光ビジネスコース「観光基礎」では地域の観光資源をテーマとしたフィールドワークに年間9回取り組むなど地域の魅力や課題の発見につながるよう指導している。生徒対象アンケートでは「今まで気付かなかった地域の魅力に気付いた」に94%、「将来自分の住んでいる地域のために役立ちたい」に64%の回答(同様の全国調査平均37%)を得ている。
- ・総合選択制には、生徒に多様な選択肢を提示するという意義が大きい。異なる学科の生徒同士が同一の授業を受けるなどして、総合制高校の特色を発揮している。生徒の様々な進路希望に応えることができていると感じる。
- ・普通科では、探究科学科との合同学習を実施し、「総合的な探究の時間」を中心に、探究科学科がこれまで培ってきた探究的な活動を取り入れ、成果を上げている。
- ・国際科における「英文多読講座」や「実用英語」、また、中国語に関する科目などは国際的視野を広げたり、異文化理解を深めたりするために有効である。また普通科・国際科における「総合的な探究の時間」の「地域課題学習」（1年次）、「とやま地球学」（2年次）は、地域と連携した探究活動を行うことにより地域理解を深めるとともに、思考力や表現力、実践力を高めている。

エ 志願状況と通学状況について

① 志願状況

再編前は、定員割れを起こす学科もありましたが、再編の結果、志望者数は、概ね改善が見られるようになりました。特に富山北部高校においては、再編後は志願倍率が2倍近くの年も見られるようになりました。生徒の希望に応じた進路先のあり方という課題はありますが、より明確な目的意識を持って入学する生徒が増えています。

【再編前と再編後の一般入学者選抜志願倍率】

※下線は定員割れ

◎再編前（H28～H31年度入試）

泊高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (120)	1.03	<u>0.79</u>	<u>0.73</u>	<u>0.72</u>

入善高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (120)	<u>0.95</u>	1.12	<u>0.97</u>	<u>0.93</u>
農業 (30)	1.13	1.19	1.42	<u>0.81</u>

水橋高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (160～120)	<u>0.92</u>	1.20	1.00	1.02

富山北部高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (120)	1.27	1.15	1.55	1.34
くすり・バイオ (40)	1.17	2.00	1.52	1.50
情報デザイン (40)	<u>0.95</u>	1.50	1.90	1.35

高岡西高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (120)	<u>0.98</u>	1.03	1.34	1.00

高岡高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (200)	1.09	1.00	1.07	<u>0.84</u>
探究科学 (80)	1.21	1.11	1.23	1.44

南砺福光高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (80)	<u>0.88</u>	1.21	<u>0.96</u>	<u>0.96</u>
国際 (30)	<u>0.55</u>	1.06	<u>0.32</u>	<u>0.45</u>

南砺福野高等学校				
旧学科 (募集定員)	H28	H29	H30	H31
普通 (160～120)	<u>0.99</u>	1.14	1.27	1.20
農業環境 (30)	1.56	1.50	<u>0.81</u>	<u>0.88</u>
福祉 (30)	<u>0.75</u>	1.13	1.40	<u>0.80</u>

◎再編後（R2～R4年度入試）

入善高等学校			
新学科 (募集定員)	R2	R3	R4
普通 (160)	<u>0.97</u>	<u>0.95</u>	<u>0.85</u>
農業 (30)	1.12	<u>0.86</u>	1.30

富山北部高等学校			
新学科 (募集定員)	R2	R3	R4
普通 (120)	1.81	1.98	1.59
くすり・バイオ (80)	1.98	<u>0.90</u>	1.28
情報デザイン (40)	1.45	2.30	1.17

高岡高等学校			
新学科 (募集定員)	R2	R3	R4
普通 (200)	<u>0.91</u>	<u>0.80</u>	1.10
探究科学 (80)	1.50	1.43	1.00

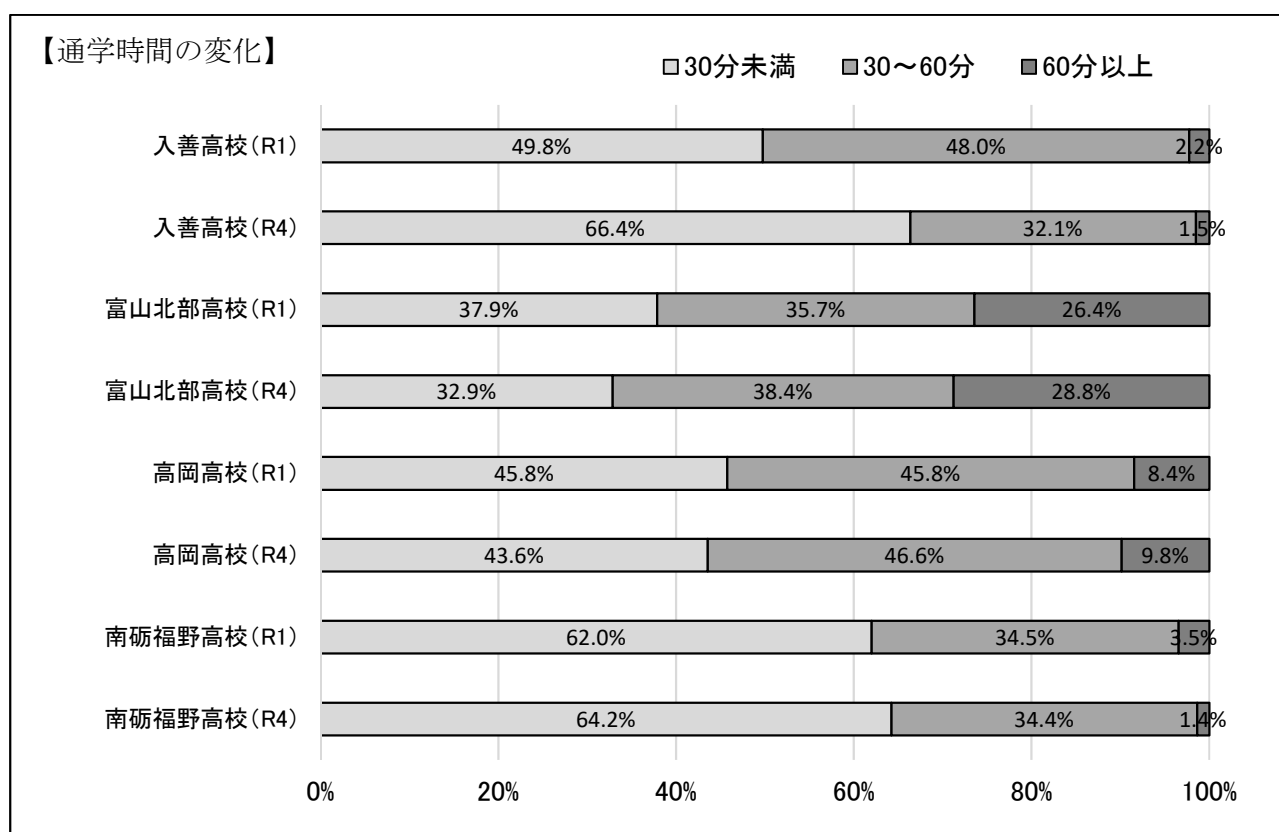
南砺福野高等学校			
新学科 (募集定員)	R2	R3	R4
普通 (160)	<u>0.96</u>	<u>0.94</u>	1.10
国際 (30)	<u>0.63</u>	1.22	<u>0.81</u>
農業環境 (30)	1.94	2.25	<u>0.81</u>
福祉 (30)	<u>0.53</u>	1.20	1.27

【中学校からの聴き取り】

- ・学力層に幅があるように思われるので、その中で授業が成り立っているのかという心配がある。
- ・普通科の合格水準を予測しづらくなり、進路指導の難しさにつながった。
- ・再編前と変わらず、努力して入りたいと思う高校である。
- ・複数の学科があるので、何をしたいのか、何を学びたいのか、卒業後に何をしたいのかをよく面談して決めている。

② 通学状況

生徒の通学時間は、再編後の学校によって変化の様子が異なっています。入善高校や南砺福野高校については、通学時間が30分未満の割合が上昇しています。入善高校では、近隣の地域からあいの風とやま鉄道を利用して通学する生徒が多いことが一因と考えられます。南砺福野高校では、自家用車で送迎してもらう割合が上昇しています。富山北部高校や高岡高校については、通学が30分以上の割合が上昇しています。富山北部高校では、あいの風とやま鉄道を利用して通学する生徒が多くなっています。また、路面電車の南北接続により、遠方からでも通えるような状況にあります。新高校がカリキュラムや施設・設備等の充実により魅力が増し、遠方であってもその学校に通いたいという生徒が増えたものと推測されます。



【中学校からの聴き取り】

- ・路面電車の南北接続により、普通科志望生徒の進路選択肢の一つに入ってきた。
- ・地元志向が強い保護者が多いため、遠方に行く必要がなく、通いやすくありがたい学校である。

7 令和2年度再編統合に関するアンケート調査結果の概要

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書』（令和5年5月）より

ア 調査の目的

この調査は、R2再編計画に係る評価を行い、今後の高校教育の充実、改善を図るための基礎資料を得ることを目的とする。

イ 調査の対象と回収状況

	標本数	有効回収数	回収率
再編統合校の新校3年生	934	552	59.1%
再編統合校の新校3年生の保護者	934	320	34.3%
再編統合校の新校教員	245	136	55.5%
比較対象校3年生	991	786	79.3%
合計	3,104	1,794	57.8%

ウ 調査方法

- ① 学校を通じて配付
- ② 電子申請サービスを活用して、回答を回収

エ 調査時期

令和4年12月1日（木）～ 令和5年1月12日（木）

オ 調査結果の主な概要

① 満足度について（生徒対象：全科共通）

- ・入善 生徒同士の関係(65%)、学習相談等(63%)、部活動(63%)
 - ・富山北部 生徒同士の関係(75%)、ICT機器の活用(72%)、教科指導(69%)
 - ・高岡 生徒同士の関係(87%)、教科指導(83%)、個人面接(81%)
 - ・南砺福野 部活動(74%)、生徒同士の関係(72%)、先生とのコミュニケーション(69%)
- いずれの学校も共通して、「生徒同士の関係」の満足度が高い。

② 達成度について（生徒対象：全科共通）

- ・入善 コミュニケーション力(67%)、進路・将来の明確化(67%)、仲間と協調する力(64%)
 - ・富山北部 仲間と協調する力(83%)、進路・将来の明確化(80%)、一般教養・知識を増やすこと(77%)
 - ・高岡 論理的思考力(87%)、幅広い見方(87%)、一般教養・知識を増やすこと(84%)
 - ・南砺福野 仲間と協調する力(78%)、コミュニケーション力(76%)、一般教養・知識を増やすこと(75%)
- 多くの学校で、今までの高校生活において「仲間と協調する力を伸ばすこと」「一般教養・知識を増やすこと」について達成できているという回答が多い。

③ 各学校の特色について役立っているもの（生徒対象）

- ・入善 専門科目「観光基礎」「エリアスタディ」の開講(72%)
- ・富山北部 専門科目「スポーツI～IV」の開講(78%)

- ・高岡 基礎学力を充実するための教育活動の実施(86%)
- ・南砺福野 専門教科「英語」や「第2外国語」の開講(44%)

④ 保護者満足度（保護者対象）

- ・入善(88%) ・富山北部(75%) ・高岡(85%) ・南砺福野(76%)
- いずれの学校も7割以上の満足度である。

⑤ 学校規模のメリット（教員対象）

- ・入善 部活動の活性化(52%)、教員一人あたりの担当科目数(48%)、学校行事の活性化(45%)、選択科目の増加(45%)
- ・富山北部 部活動の活性化(82%)、選択科目の増加(63%)、生徒同士の切磋琢磨(63%)、学校行事の活性化(63%)、教員一人あたりの担当科目数(63%)
- ・高岡 部活動の活性化(70%)、学校行事の活性化(70%)、生徒同士の切磋琢磨(70%)
- ・南砺福野 部活動の活性化(71%)、学校行事の活性化(71%)、生徒会活動の活性化(60%)

○いずれの学校も「部活動の活性化」「学校行事の活性化」の回答が多い。

⑥ 効果があるもの（教員対象）

- ・入善 フィールドワークや各種機関等と連携した教育活動の実施(85%)
- ・富山北部 大学や企業と連携した教育活動の実施(68%)
- ・高岡 基礎学力を充実するための教育活動の実施(63%)
- ・南砺福野 施設・設備の充実(71%)

⑦ 記述回答項目における主な意見

【生徒】

- ・プレゼンテーション力や情報収集力、論理的思考力などを高めることができた。
- ・進路選択において参考となったり、選択の幅を広げたりすることにつながった。
- ・講座の内容が今後役に立つとは思えなかった。

【保護者】

- ・高い志を持った仲間と切磋琢磨して勉強や部活動に取り組むことができた。
- ・職業科ならではの授業があり、専門分野の指導が充実していることが良かった。
- ・コロナ禍ということもあり、本来できるはずの子どもの活動が制限されたり、学校行事を参観する機会がなかったりしたことが残念だった。

【教員】

- ・部活動数や行事が増えたことで生徒の成長やモチベーション向上につながった。
- ・生徒が増えたことで活気がある。その一方、細かい目配りが難しい面もある。
- ・生徒間の学力差が大きくなり、学習意欲を高める工夫が難しくなった。

8 県立高校のあり方に関するアンケート調査結果の概要

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書』（令和5年5月）より

ア 調査の目的

この調査は、「魅力と活力ある学校づくり」を目指す県立高校の、今後のあり方について検討するための基礎資料を得ることを目的とする。

イ 調査の対象と回収状況

	標本数	有効回収数	回収率
公立中学校3年生・義務教育学校9年生	908	735	80.9%
公立中学校3年生・義務教育学校9年生の保護者	908	480	52.9%
県立高校2年生	2,160	1,461	67.6%
県立高校2年生の保護者	2,160	934	43.2%
県立高校卒業生	388	189	48.7%
教育関係者	445	371	83.4%
県内に事業所を有する企業	800	407	50.9%
合計	7,769	4,577	58.9%

ウ 調査方法

- ① 中学3年生、中学3年生保護者、高校2年生、高校2年生保護者、中学校・高校教員は、学校を通じて配付
- ② 卒業生は、高校を通じて郵送配付
- ③ その他の対象者は郵送配付
- ④ 電子申請サービスを活用して、回答を回収

エ 調査時期

令和4年8月22日（月）～10月7日（金）

オ 調査結果の主な概要

- ① 高校選択の際、重視すること
 - ・全調査対象者を通じて、前回（H17調査）同様、「中学校における成績」の回答が最も多いが、卒業生を除いて、前回と比較して割合は減少している。特に中3保護者と高2保護者は、10ポイント程度減少している。
- ② 高校に関する情報の取得方法
 - ・中学3年生については、「高校の学校案内やオープンハイスクール」の回答が最も多い。他の調査対象者は、「中学校で配布される進学資料」の回答が最も多い。
- ③ 高校生活で身につけること
 - ・中学3年生、高校2年生、卒業生は、前回同様「大学などへ進学し基礎となる学力」の回答が最も多い。企業は、前回同様、「社会人としてのコミュニケーション力」の回答が最も多い。

④ 高校生活、学習内容の満足度

満足 + どちらかといえば満足	高校生活			学習内容		
	高校2年生	高2保護者	卒業生	高校2年生	高2保護者	卒業生
R4調査	64.9%	76.2%	81.5%	72.4%	69.5%	83.0%
H17調査	52.2%	71.8%	82.2%	53.4%	61.0%	81.1%

⑤ 学習内容について望むこと

- ・高校2年生は、前回の「進路希望や興味関心に基づいて選択できる多様な科目を増やす」(41.5%)が29.0%と減少し、今回「進学に役立つ科目の時間を増やす」(30.9%)の回答が最も多い。

⑥ 興味や関心のある学習

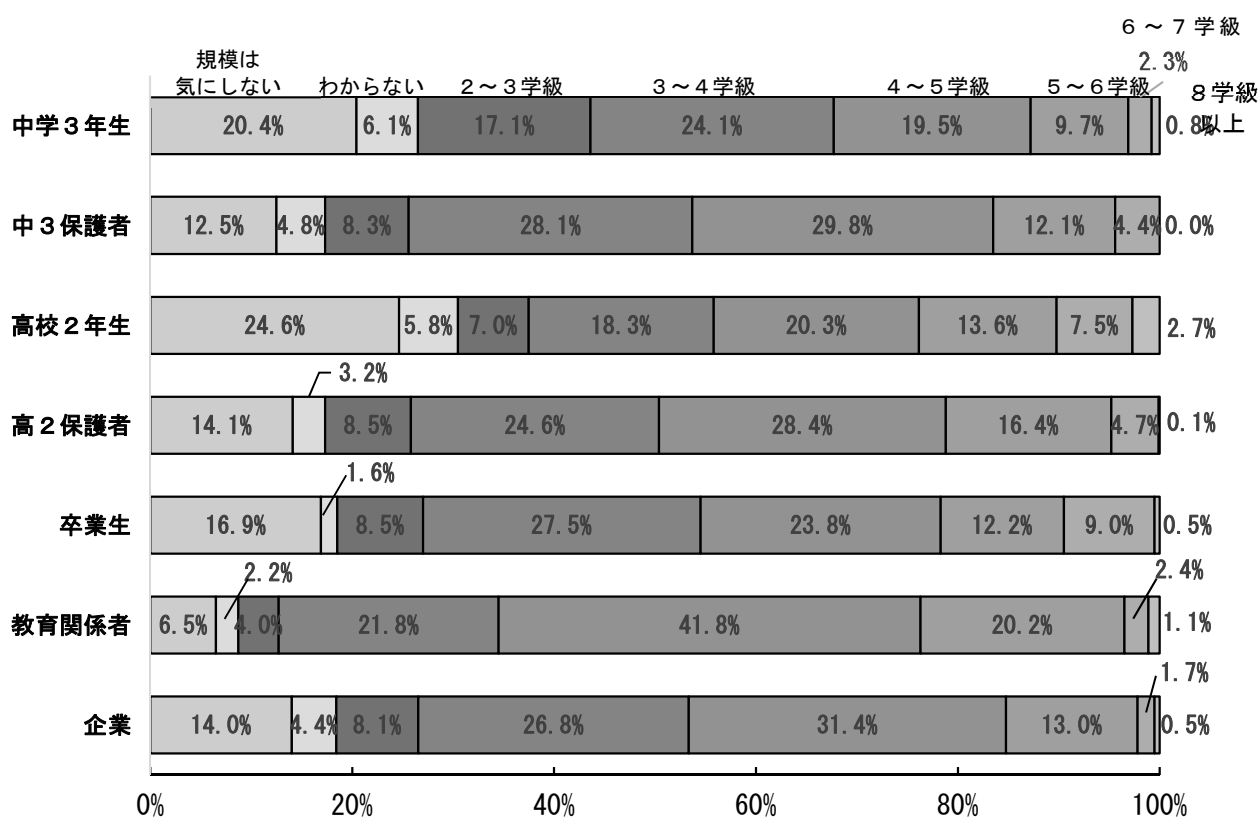
- ・中学3年生は、「人文科学や社会科学」「スポーツや健康に関すること」の回答が多く、中3保護者は、「データサイエンスなどの情報に関すること」「外国語や国際理解に関すること」の回答が多い。

⑦ 普通系学科と職業系学科の定員の割合

- ・中3・高2保護者、卒業生、教育関係者対象の回答。どの対象者も「これまでと同程度でよい」の回答が最も多い。

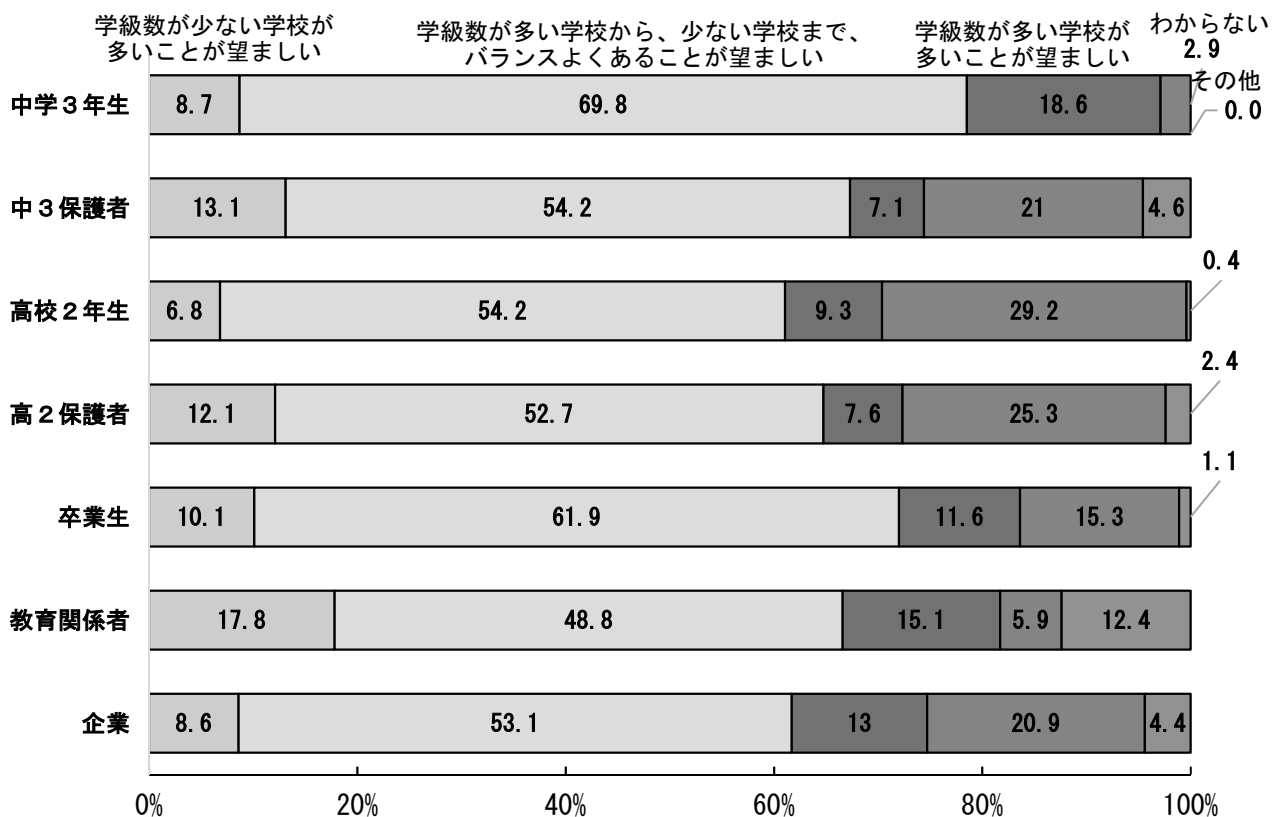
⑧ 有意義な高校生活を送るための学校規模

- ・高校2年生以外の調査対象者で「4～5学級」または「3～4学級」の回答が最も多い。
- ・高校2年生は「規模は気にしない」の回答が最も多い。



⑨ 望ましい県全体の高校像

- ・全調査対象者を通じて、「学級数が多い学校から少ない学校まで、バランスよくあることが望ましい」の回答が最も多い。



⑩ どのような高校があれば良いか

- ・中学3年生、高校2年生は、友人との関係を重視する回答が多い。保護者、教育関係者、企業は、「きめ細かい指導が行われる学校」の回答が最も多い。

⑪ どのような特色を持った学校があれば良いか

- ・全調査対象者を通じて、前回同様「資格取得や就職に必要な技能」「興味・関心や進路希望に応じた科目選択」の回答がいずれも多い。
- ・その他として、「知識・情報に偏ったものではなく道徳・社会的常識を重視した学校」や「問題解決までの過程を重視する学習ができる学校」などの意見がある。

⑫ 高校の連携として考えられること・すでに連携していること

- ・企業として、「生徒の企業見学」「インターンシップ」の回答が最も多い。

9 総合教育会議における主な意見と論点整理

※ 総合教育会議 (R5. 2. 13) 資料より

【委員等の主なご意見】

公私比率

- ・生徒数の減少への対応には入学定員の減はやむを得ない。公立私立で調整して適正な定員とすべき。
- ・私学経営には、2,000人の定員が必要。今後の定員減は県立で対応を。
- ・全体の8割超の生徒が県立志望であり、県立のみの削減には理解が得られない。

授業料格差

- ・公私フラットで考えられる場合、格差是正が不可欠。
- ・公私格差が縮小すれば、進路選択の幅も広がる。格差のない環境で、生徒から選ばれられる学校を目指すべき。

学区

- (通学区)
- ・廃止の場合、特定の学校や地域に志願者が集中の懸念。
- ・魅力ある学校ができれば学区を越えた学びを望む生徒は増える。子どももフアーストで考えるべき。
- (学級編制における取扱い)
- ・学区を取り払えば、定員割れの学校が増加する恐れ。

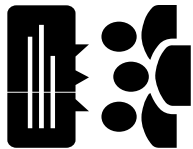
普職比率

- (普職比率の取扱い)
- ・学級単位の増減が比率に影響。柔軟に考えるべき。
- (職業科のあり方)
- ・職業科からも多数の生徒が進学している。
- ・15歳で明確に将来を描けない生徒も多い。学科の細分化はいいかかか。

学級編成

- (学級編制の考え方)
- ・生徒の居住地や通学範囲、バランス等を考慮すべき。
- (高校、学科のあり方)
- ・多様な人との関わりの中で、学科の併存も含め一定の学校規模は確保すべき。
- ・職業科は、就職を目指すだけでなく、多様な学科があつてよい。

県立高校のあり方、公私の役割など



- ・直近の生徒減への対応のみでなく、公私や普職の別を問わず子どもたちから選ばれられる学校をどうつくるのかを最優先で考えるべき。
- ・工夫して地域の子どもの進学する学校をつくるなど、地域創生の核となる高校のあり方も検討してはどうか。
- ・多様な設置形態・規模、地域性や交通の便等の社会情勢、支援を要する生徒のために学びを止めないなどのニーズをふまえた県立高校像を模索すべき。
- ・子どもを置き去りにせず、夢や希望、声をしっかりと反映してほしい。
- ・時代の要請や生徒等のニーズを踏まえ、スクール・ポリシーに基づいた学校づくりや定員を考えてはどうか。
- ・公私協調を基軸に、生徒の自己実現や人材育成に向けて教育を充実・発展させてほしい。

課題・留意点、今後の方向性の主な論点

公私比率

- ・公私比率は、県立・私立双方の学級編制や学級数を考えるうえで、また、生徒の多様な希望を叶える点でも重要。そのあり方は、公立高等学校連絡会議で公私協調のもと引き続き協議・検討。

授業料格差

- ・子育て世帯の教育費負担の軽減や、子どもが多様な進路選択に資するたため、全国の取組状況を踏まえ、私立高校授業料補助制度を拡充し、授業料の公私間格差の縮小を検討。

学区

- ・通学区は、普通科についても全県一区とすることを含めて検討。
- ・学級編制時の学区の取扱いは、4学区を基本としつつ、地域の均衡ある学びの確保を踏まえて検討。

普職比率

- ・普職比率(総合学科除く)は、志願や進路の動向、学科構成、県民ニーズのもと、現行比率を目標に柔軟な取扱いを検討。・新たな高校、学科のあり方を含めて検討。

学級編成

- ・地域の均衡ある学びの確保を踏まえつつ生徒数の動向、志願状況を勘案して総合的な判断が必要。
- ・高校再編にあたっては、再編に関する基準などの基本的な方針について、新たな検討の場を設置し検討。

10 今後の検討の方向性

※『令和の魅力と活力ある県立高校のあり方に関する報告書』（令和5年5月）より

県立高校再編の実施方針（平成30年2月5日）によれば、令和9年度以降の対応については、中学校卒業予定者数の推移等を踏まえ別途協議することとされています。

今後の再編計画については、今後も中学校卒業予定者数の大幅な減少が見込まれることから、「令和の魅力と活力ある県立高校のあり方検討委員会」や総合教育会議での議論を踏まえ、県立高校の学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、令和5年度以降、できるだけ速やかに新しい検討の場を設け、丁寧に検討していく必要があります。

今後、この報告を踏まえ、本県における中学校卒業予定者数が今後も急速に減少し続けることが見込まれることから、県立高校の普通系学科、職業系専門学科、総合学科等の見直しや高校再編に関する学校規模や基準などの基本的な方針について、引き続き検討の場を設け、丁寧に検討を進める必要があります。

この検討に当たっては、生徒や保護者等のニーズ等も考慮しつつ、教育関係者、市町村、PTAなどから幅広く意見を伺いながら、新たな県立高校のあり方や高校再編の基本的な方針について、検討を進める必要があります。